



# ARIMASS Letter

[ Association for Risk Management System

危機管理システム研究学会 2000年9月22日

第2号

## ARIMASSは会員1人ひとりにアリマス

危機管理システム研究学会副会長

樋口 修一郎（東京ガスハウジング）

4月22日に産声をあげた当学会には、新しい学会として幾つかの特色がありますし、これからも誇れる特色が多くなっていくことが期待されていると考えます。そこで、当学会の自負できる特色について、触れてみます。

特色の第1は、何と云っても徳谷会長の“深い想い”である教育インフラへのリスクマネジメント・危機管理の組込み活動であります。この狙いは、まさしく“当り”でありまして、幾つかの大学との間で、既に具体的な話が進むに至っております。

特色の第2は、学会活動の成果を以て“より良い社会システム創り”に貢献していこう、という点であります。学会が“世直し”に資していきたいということであり、このフィールドでの拡がりに期待が大であると申せましょう。

特色の第3は、会員全員の参加・参画を学会運動の原案としていくことであります。

本当の意味での会員の皆さんの、学会活動へのご参加を願ってやみません。結果として、会員1人ひとりの存在感が高い学会としたいものです。学会の中での会員の存在感なくして、社会での学会の存在感は手中に出来ない、との想いでもあります。

これらの特色の実践のための第1ステップである3つの分科会活動もスタートしました。

我々の学会ARIMASSの精神と発展の原点は会員1人ひとりにアリマス

と云うことで、皆で発展を期す学会にしていこうではありませんか。

### 目次

ARIMASSは会員1人ひとりにアリマス...	1	事務局からのお知らせ .....	4
分科会報告 .....	2		

## 分 科 会 報 告

### 【危機管理教育実践分科会】

世話人：常任理事 後藤 和廣(三井海上基礎研究所)

- 1.開催日時、場所：7月12日18時30分より20時30分まで、三井海上基礎研究所会議室
- 2.分科会員(敬称略、50音順)及び出席者  
安達 弥八郎、大越 修、貝賀 滋(出)、小島 直樹(出)、後藤 和廣(出)、高木 利勝(出)、辻 純一郎(出)、樋口 修一郎、村上 處直
- 3.内 容
  - (1)部会員紹介：第一回目の会合であり分科会会員の紹介を簡単に行った。
  - (2)分科会方針の確認：創立総会時の配付資料を使い当分科会の方針を確認した。
  - (3)大学におけるリスクマネジメント教育の現状：『大学における「保険分野に関する教育」についてのアンケート調査』(日本保険学会及び財団法人生命保険文化研究所編)を使い教育の現状分析を行った。主な特徴点以下の通り。

リスクマネジメントが「保険関連学科」として調査対象となっている。(意見：法務リスク、統合リスクマネジメント等、保険型リスクマネジメントでは対応が難しいと思われるリスク及び処理方法が出現している点を考慮すれば、保険にこだわらなくてもよいのではないか?)

リスクマネジメントの講座は大学院研究科で16講座(回答を提出した大学院研究科教522)、学部で40講座(回答を提出した学部教724)と多くない。

講座があっても休講、欠講となっている大学院・大学がある。

リスクマネジメントの講義を担当している教官・教員は他大学の講師を兼任している例もあり少ない。

使用テキストからみると、保険論に大きなウェイトを置いた講座もある。
  - (4)現在までの講座拡大の交渉状況報告：現在交渉中の福岡大学、横浜市立大学、名古屋地区における危機管理シンポジウムへの講師派遣等について報告した。
  - (5)講座拡大策の論議：代表的な意見は以下通りであるが、学会の方針を確認する必要がある意見もあるので、学会理事会にて報告し論議をお願いできないか照会することにした。

当会の会員で大学の教官・教員の方がいる。その所属大学でリスクマネジメントの講座が開設されていない事例もある。このような大学の場合、会員先生を通じ講座の開設を交渉してはどうか。

講座があり欠講・休講となっている大学には学会から講師派遣の交渉を行ってはどうか。

名古屋及び九州には、会員の教授がいる。この人たちの大学を拠点校として、各地区での講座開設活動に貢献していただけないか。

大阪地区は、講座がなく開設交渉し易い大学と、伝統ある講座を維持しており交渉し難い大学がある。

講師不足はオーバー・ドクター等を活用すれば解消できる。オーバー・ドクター等の活用は育てた先生との交渉が必要になる場合もある。この場合当会の趣旨を説明し会員化も同時に進めてはどうか。会員化できない場合でも、「リスクマネジメント教育の普及」の点から当会の趣旨に合致するので進めることを検討してはどうか?
- 4.他
  - (1)リスクマネジメント関連情報の収集と開示：当会として、リスクマネジメント関連情報(例：規格化動向、海外の動き、個別リスクに対する対応事例)を集め開示することを期待している会員が多いのではないかと、もし多ければ対応を検討してはどうかとの意見があった。
  - (2)リスクマネジメント関連情報の報告：「イギリスにおけるリスクマネジメントの開示要求」と「英国におけるリスクマネジメントの国際規格化」について報告があった。

### 【リスクマネジメント・システム研究分科会】

世話人：常任理事 指田 朝久(東京海上リスクコンサルティング)

#### <第1回会合報告>

2000年7月27日木曜日午後6時30分から新東京法律事務所の会議室にて第1回の研究分科会を開きました。分科会参加者は現在21名でそのうち北沢義博さん、三野正洋さん、五島光郎さん、吉川賢一さん、長井健人さん、松本次男さん、坂清次さん、福田久治さん、指田が集まりました。各自の自己紹

介の後、世話人を務める指田からリスクマネジメントシステム J I S 規格の現状、海外の類似規格の紹介を行いました。その後各自の関心の共有化や今後の進め方などを話し合いました。

主な関心点としては 学会として規格を普及させる義務があると思うが本当に良い規格なのか。普及させるには規格のメリットとして何があるか。システム認証と実効性は異なるのではないか。第三者認証はパフォーマンスを見ることは出来ない。第一者は組織内の独立した部門でパフォーマンスを見る必要がある。ISO のその他のマネジメントシステム規格との比較が必要など、活発な意見が出されました。

現在 2001 年 3 月に J I S 化される規格が一般には公表されていないので、今後これらの公開スケジュールなどに注目しながら J I S 規格を精読するところから研究をすすめていきます。

## オピニオン

弁護士である北沢先生のオフィスで開かれた最初の分科会のレポートです。指田氏の見事な司会、進行で 2 時間半にわたりかなり濃密な議論が続きました。ただ今後の検討課題としては、議論、検討の的をどのように絞るか、にあるようです。たとえば国家、あるいは大規模自然災害の危機管理などは除く、といった制限を設けるだけでも充実した議論が出来そうな気がしています。個人的には一般家庭、中小企業の危機管理に取り組みたいと考えていますが・・・。2 回目も楽しみです。

会員 三野 正洋 (日大生産工学部)

品質、環境そして労働安全衛生と ISO のマネジメントシステムがわが国で話題となり、ブームの様相を呈している。喜ばしいことではあるが、気になる誤解が一つあり、何とかしたい。それは認証というマーク取得、ブランド志向が強くあたかも大学入試同様に、猛勉強して合格しさえすればという風潮である。リスクマネジメントシステムは特に構築より、その後の維持管理に鍵があり、地道な活動としたい。

会員 坂 清次 (三菱総合研究所)

## 【リスク情報交流分科会】

世話人：常任理事 鈴木 敏正 (日本総合研究所)

< 第一回会合報告 >

日時:2000 年 7 月 25 日 午後 5 時から 8 時まで、後 10 時頃まで、懇親会

参加者(13 名): 大羽宏一、川崎宗二、幸山明雄、小島直樹、小林 誠、島田公一、出崎 克、徳安孝義、樋口修一郎、福田久治、吉川賢一、鈴木敏正、長井健人

場所 日本総研プレゼンルーム

仮世話人から、分科会設立の趣旨説明の後、参加者から、以下のような意見が、出された。

- | リスク情報の概念の整理、その中で、どのようなリスク情報を扱うのかを明確化すべき
- | 従来のリスクという言葉にとらわれずに、広く、現代的・今日的リスクを見つけるべき
- | インターネットというツールを用いて、何が今、リスクとして考えられているのか、を知ることから始めてみたら。そこからリスクの芽を抽出、整理してはどうか。
- | 予兆を嗅ぎ取る能力を磨くこともこの分科会の目的の一つになるのではないか。
- | 各自の得意・興味分野に関わるリスクから始めて、その後拡大していったらどうか

上記のような議論を踏まえ、次のような方向で分科会を運営していくこととなった。

学会で立ち上げる分科会用枠のメーリングリストを活用し、分科会メンバー限定で、当面、リスク情報の交流を行う。

現在、リスクとして、どのようなものが、ネット上で議論されているか、サーチしそれらを整理して、まず、活動を始める。

活動ルール等については、世話人会で案を作成しメーリングし、議論する。

出来れば、季節ごとに分科会メンバーが、集まり実交流を図ることとする。

当面、世話人は、大分大学 大羽先生、住友海上リスク総研 小林氏 日本総研 鈴木事務局は、日本総研 長井氏にお願いする。

会議終了後、場所を移し、第一回飲み会を開催し、夜の更けるまで懇親した次第である。

## オピニオン

分科会ではリスク情報の発信について議論が行われ大変有意義でしたが、その後の懇親会では、こんな意見ができました。

今日は楽しくお酒が飲めます。皆さんと愉快地にリスクの話ができる"場"が分科会でもいいなと思いました。

初めて参加させていただきました。いろいろなご経歴のメンバーで面白いと思います。私は、最近、どうも日本人はもともとリスクの観念が欠如した国民で、その一方、偶然にこの55年うまくいっていた国民だと思うようになりました。ウマク説明出来ませんが、致命的なダメージを受けずに55年過ごしてきたへたくそドライバーのようなものじゃないかという訳です。また最新の情報をお教えてください。

皆さんの積極的な参加に感心いたしました。私はリスク分析とか金融・保険についてはシロートですが、楽しい雰囲気には魅せられました。

楽しく、有意義な場となることを期待しております。

この分科会のキーワードは "場" "楽しい雰囲気" といったところでしょうか。

会員 小林 誠 (住友海上リスク総合研究所)

## 事務局からのお知らせ

### 1.分科会日程

- 第1分科会(教育実践) : 第2回研究会 10月11日(水)18:30から、三井海上基礎研究所会議室にて
- 第2分科会(RMS) : 第2回研究会 9月25日(火)18:30から、新東京法律事務所にて
- 第3分科会(情報交流) : 未定

### 2.新入会員紹介

### 3.ホームページができました

アリマスのホームページができました。ご意見ご要望をお寄せいただき、皆さんで創り上げて下さい。

URL(ホームページアドレス) <http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

### 4.会費納入のお願い

2000年度の会費の納入をお願い申し上げます。未納の方は至急お振込み下さいますよう重ねてお願い申し上げます。【納入方法:あさひ銀行横浜西口支店 普通預金 0445130 口座名:危機管理システム研究学会】

### 5.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-19-403

. 045-440-6778 FAX. 045-440-6777

e-mail : [arimass@muh.biglobe.ne.jp](mailto:arimass@muh.biglobe.ne.jp)

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

平成 12 年 9 月 22 日 発行

印刷 株式会社 櫻 栄 . 03-3288-5571